

2020年度 社会福祉法人 高崎福祉倶楽部 事業報告

1. 基本方針

基本理念である「生きる喜びを支えるケア」と「その人らしさを大切に一人ひとりの生活を支援する」の実現を目指します。

2021年介護保険制度改正の動向や「深刻な人材難」「サービス対象者の減少」「大規模化」など、課題は山積しておりますが、あるべき姿なすべきことを忘れず取り組んで参ります。

- ① 介護サービスの質の維持と人材育成
 - ・ Ict 導入による情報の共有化と業務の分業化
 - ・ 資格取得支援と内部研修の継続
 - ・ 有給休暇の計画付与（年10日以上の場合5日）
 - ・ 多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む）
- ② 地域貢献等
 - ・ 地域活動（介護予防体操）の継続
 - ・ ホームページリニューアルによる広報の強化

◆実績報告

新型コロナウイルス感染拡大防止のため平時の感染対策に加え、手洗い、家族面会の制限（オンラインは実施中）、職員検温、健康記録の実施を中心とした感染対策に注力して参りました。ご家族様、職員と関係者の皆様のご支援とご協力のもと、感染者を出すことなく期末まで過ごせましたことに感謝申し上げます。今期も更なる感染対策と新しい生活様式やBCP（事業継続計画）にも鋭意努力して参ります。

- ① 介護サービスの質の維持と人材育成
 - ・ Ict 導入による情報共有化と業務の分業化
介護サービスの記録ソフト導入によるタブレット端末を使用しての記録、情報共有を目指して日々奮闘しております。まだまだ使いこなせる域まで達していない状況です。来期は、業務の分業化に向け、更なる努力と協働が求められる。
 - ・ 資格取得支援と内部研修
新型コロナウイルス感染拡大の影響により今年度は対象者なし、内部研修はオンラインで実施となった。
 - ・ 有給休暇の計画付与 概ね良好
 - ・ 多様な人材の活用（外国人技能実習生や留学生を含む） 臨時理事会（書面）により承認
介護福祉士養成校修学資金貸付制度利用のため中国人留学生への法人保証を実施、次年度2名希望あり。
- ③ 地域貢献等
 - ・ 地域活動としての介護予防体操教室は新型コロナウイルス感染拡大により中止
 - ・ ホームページリニューアルによりホームページから問い合わせが入るようになった。今後もブログ等視聴いただけることを目指す。

3. 予算（借入金償還を含む）

◆決算報告 ※別紙参照

4. 会議計画

- | | | |
|-------------------------|-----|----------|
| ① サービス責任者定例会議 | 月1回 | 各事業所の責任者 |
| ② 安全衛生委員会・危機管理委員会（①と同日） | 月1回 | 各事業所の責任者 |
| ③ 給食会議 | 月1回 | 各事業所の責任者 |

5. 研修計画

- | | |
|------------------------|-----|
| ① 職員研修 | 月1回 |
| ② 看取り・喀痰吸引の研修 | 年1回 |
| ③ 感染予防、事故、身体拘束防止に関する研修 | 年4回 |
| ④ 外部研修への参加（※認知症の理解等） | |

◆実績報告 会議、研修ともにオンライン会議を含め概ね計画通り実施しました。

6. 改修・購入計画

- ① 厨房設備機器入替

◇実績報告

- ① 厨房設備機器入替（高崎拠点）については、温冷配膳車（給食用）を購入。次年度、スチームコンベクションオープンを購入。

7. 職員採用計画

- ① 介護福祉士養成校や社会福祉協議会、ハローワーク、派遣事業者との連携、シルバー人材、有償ボランティア等の活用
- ② 外国人技能実習生の受入れ

◆実績報告

- ①② 採用活動は思うように振るわず、フィリピンからの外国人技能実習生受入は新型コロナウイルス感染拡大により中止となったが、留学生（みなみちょうのアルバイト）から介護養成校就学に際して修学資金貸付制度の法人保証の依頼を受け、理事会の承認により支援を実施。2021年度も留学生2人が制度利用と法人保証を希望している。

8. 介護報酬改定 2021年改定の動向とそのポイント

◆実績報告

介護保険改定については、既に介護サービス記録ソフトを導入したこともあり、加算や要件等不明確な点もあるが期限内に対応できました。

2020年度 特別養護老人ホーム悠ゆう 事業報告

昨年導入した介護ソフトを十分に活用し施設サービスの充実に繋げる。

◇ 特養・短期入所

< 目 標 >

人材育成と ICT 活用による情報の共有化

< 実施計画 >

1. 役割分担と連携によるチームケアの構築
 - ①ケアプランの共有化
 - ②業務内容の見える化（ICT の導入等）と具体的な役割
2. 専門的なケアの理解と実践

機能訓練

< 目 標 >

生活リハビリの充実

< 実施計画 >

1. 残存機能維持を目的としたレクリエーションの実施
2. ご利用者の生活歴を踏まえた住環境の整備と日常生活の充実を図る
3. 口腔機能向上のための口腔体操を実施（誤嚥・インフルエンザ予防）

給 食

< 目 標 >

食べる楽しみと経口摂取の維持

< 実施計画 >

1. 食欲を刺激する献立、食事形態の工夫による経口摂取の維持に努める
 - ①季節感や生活感のある食事の提供
2. 栄養ケア計画に基づき経口摂取機能の適切な評価
 - ①多職種による評価を基にした嚥下調整食の提供

健康管理

< 目 標 >

健康の維持と感染症の予防

< 実施計画 >

1. 健康管理と観察のポイント、疾病と服薬（皮膚の保湿）についての周知
2. 看取り、褥瘡予防、感染予防等の施設内研修の実施
3. 事故の予防と事故発生時の対応の周知
4. 職員の健康診断を実施（腰痛予防対策を含む）

◆実績報告

1. ICT の活用により情報共有、業務の見える化、業務改善に繋げることができた。
2. PDCA サイクルを実践的に行う多職種連携の機会が乏しく、今後の課題。

3. 新型コロナウイルス感染症対策としての手洗い、マスクの管理、消毒や廃棄物保管等の環境整備、新しい生活様式等への対応、面会制限（オンライン面会は可）は継続している。
4. 日常的なケアは丁寧にできているが、感染症対策もありレクリエーションが少なかったことが次年度への課題。
5. 入居者の口腔機能維持を目指し、訪問歯科診療（毎週金曜日）と歯科衛生士（施設職員）による口腔ケアを実施しました。歯科医師の助言のもと、一人ひとりに合わせた口腔ケアと定期的な評価を実施している。
6. 特養のみ、毎月1回おやつピュッフェを実施、テーマを決めて（洋菓子、和菓子等）4品から2品選んでいただく形式で実施。「どれもきれいで美味しそう」とみなさま迷うのたのしく大変好評です。

2020年度 デイサービスセンター青葉 事業報告

「住み慣れた地域で暮らす」を目標に通所介護、介護予防・総合事業を提供します。

< 目 標 >

ご利用者一人ひとりに寄り添い、地域での暮らしが維持できるよう支援する。

< 実施計画 >

1. 軽費老人ホーム、短期入所事業、居宅事業者やあんしんセンターと連携し新規利用者を獲得する。
2. 地域における認知度アップを目指し積極的な情報発信をする。
3. 地域活動「歌って笑って健康体操」の継続により地域住民との交流をはかる。
4. 手作り品の展示（販売）等による生きがいづくり。

◆実績報告

1. 居宅介護支援事業所と連携して新規利用者3人獲得、既存の利用者の追加利用により、延べ人数は前年度比5%増、目標達成ならず。今後も居宅介護支援事業所と連携を図り定員である18人確保に努める。
2. 青葉便りを作成しご家族や大類中学校等の訪問し情報発信を行った。
3. 地域活動「歌って笑って健康体操」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛。
4. 玄関での手作り品の販売は継続。利用者様の特技を生かした手袋やレク工作で制作したマスク、消臭袋等を販売。感染拡大する中マスク不足に貢献できた。
5. 年間レクリエーションは計画通り実施された。
6. 事故報告7件（事故の発生した時間帯は昼食後、退所前が多く主に転倒だった）
ヒヤリハット7件（薬の配薬忘れ、移動時の歩行器使用忘れや見守り必要な方の自力歩行でした）
ご本人の状態等を職員、担当ケアマネジャー、家族で情報共有、連携することで再発防止に努める。

2020年度 ケアプランセンター悠ゆう 事業報告

「住み慣れた地域で暮らす」を目指し、心身の状況や生活環境に応じ、適切な保健医療ならびに福祉サービスを総合的かつ効率的に提供できるよう努めます。

< 目 標 >

ご利用者の立場に立ち分かりやすい説明を心がけ、新規利用の獲得に繋がります。

< 実施計画 >

1. 近隣の病院（医療連携室等）、地域包括支援センターや地域の社会資源を活用したネットワークの構築、新規利用者の確保（稼働率の維持）に努める。
2. 地域のイベント等に積極的に参加し地域交流を図るとともに、事業所の存在をアピールする。
3. 常に最新の情報を得るため研修に参加し、事業所間の情報共有化を図る。

◆実績報告

1. 近隣の病院、薬局、高齢者あんしんセンターとのネットワーク構築により新規利用者 13 人獲得となりました。
2. 新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域活動の機会は得られなかったものの担当利用者様からの紹介により新たな利用者に繋げることができました。利用者目線で活動してきた成果と捉え、次年度も精進して参ります。
3. 特定事業所集中減算はなし。各サービス事業所利用率は、80%を上回ることなく連携することができました。

2020年度 ケアハウスグリーンガラス 事業報告

その人らしく自律した生活ができることを念頭に置き、自助、互助、共助及び公助の適切な組み合わせに留意し支援します。

< 目 標 >

ご利用者相互の親睦をはかり、参加しやすい行事を企画し、意欲や体力の低下防止に努めます。

< 実施計画 >

1. 個々の心身状況の変化に迅速かつ的確に対応するためご家族や担当ケアマネとの連絡、情報の共有化を図る。
2. 健康チェック（血圧、脈拍、体温、体重の測定）の月 1 回以上の実施と年 1 回以上の健康診断を促す。
3. 買物への支援（近隣の量販店、ドラッグストア、出張販売等）。
4. 介護予防の体操や頭の体操による健康寿命の増進をはかる。
5. 施設内での利用者交流の機会をつくる。（1F パントリー内での簡易販売所とカフェの実施）

◆実績報告

1. 入居者の心身の状況を見守り、ご家族や担当ケアマネと連絡し適切な支援を心掛けました。
2. 健康チェックは計画通り実施。心配ごと解消のため声掛け、傾聴に努めました。
3. 買い物ツアーは中止し、要望に応え簡易売店を設置しました。
4. コロナウイルス感染拡大防止を図るとともに、体操、レクリエーションのほか趣味等（書道、絵手紙）楽しい時間の提供を心掛け、引きこもり防止に努めました。
5. カフェは中止。屋外活動として屋上テラスの植え込みやプランター栽培の野菜の手入れ等、希望者を募って実施しました。苺とさやえんどうが美味しく好評でした。引き続きパッションフルーツ等の栽培に挑戦します。

2020年度悠ゆうみなみちょう事業報告

利用状況

年間平均利用率は、特養 68.0%、併設型短期入所実績なしでした。特養の結果については、人員体制整わず、5月に3丁目3番地ユニットが稼働できなくなり、3丁目1番地ユニットも1度も稼働できませんでした。加えて、コロナ禍で、退所に伴う新規入所者の補充ができなかったことが低迷の要因です。併設型短期入所でも、人員体制整わず、稼働できておらず、空床利用の短期入所に対応しています。

現在の入所状況と介護体制の整備状況ですが、入所状況は、待機者のほぼ全員が保留又は中止となり新規入所を進めることができない状況が続いています。医療機関を中心に広報活動を実施し、直ちに入所頂けるよう対応しています。中期的な目標となりますが、喀痰吸引等必要な入所希望者の受け入れについても体制を整備していきます。待機者状況から今後さらに入所窓口を広げる対策を講じていく必要があると感じています。介護体制は、現在の入所状況（入所者数）では雇用が厳しい状況にあり、入所を進めるのと並行してユニット再稼働に必要な人材確保に努めていきます。

特養・短期入所

<目標> チームケアを実践 ～チーム協働でご利用者が安心・安全に楽しく生活できるように支援する～

<実施計画>

- 1 入居者の生活習慣や生活様式を把握し、個別のニーズに沿った支援を行う
- 2 事故や不安のない（安心・安全・楽しい）生活を実現する。
- 3 部署内及び各職種間で情報共有と連携を徹底し、チームケアを実践する。
- 4 サービスの平準化と質の向上のため職員研修や勉強会を実施する
- 5 地域との連携を密に行い、ボランティアを積極的に受け入れる

<目標達成状況>

チームケアの基本である部署内の状況共有に一部不徹底な状況がある。

- 1 アセスメントにより個別ニーズの把握に努め、対応（ケア）の徹底に努める。利用者、利用者家族からの生活相談、要望・苦情については迅速を意識して対応した。状態変化や変化するニーズへの対応が課題。
- 2 事故・インシデント報告が前年度同様多い状況。中でも知らない間にできた内出血や剥離の報告が多く、予測的介護の実践と共にチームケアを実践していく。
- 3 リーダー不在時に情報が伝わらないなど情報共有が不十分。また、担当者会議で決定したケアが実施されないことがあり、そのチェックが必要。
- 4 毎月、生活研究所加藤先生による研修（法定研修含む）を開催し、職員のスキルアップに努めている。
- 5 慰問及びボランティアの受け入れをコロナウイルス感染症が治まるまで中止としている。

<次年度への課題>

チームケアの基本である部署内の状況共有の徹底に努める。もう1年、同じ目標を掲げる。

- 1 ケアプラン立案の段階から現場職員と共に作成し、に基づく対応（ケア）を徹底し、実施のチェック

体制を作る。また、変化するニーズをケアプランに位置づけ、対応（ケア）ができる体制を構築する。

- 2 部署内の情報の共有を徹底する。担当者会議の位置づけをしっかりと認識し効率的に実施する。ケアプランに基づくケアのチェックを実施する。
- 3 情報共有を徹底し、チームケアを実践する。
- 4 外部講師招聘を継続し、職員のスキルアップを図る。
- 5 慰問及びボランティアの受け入れにあたっては、状況により適正な対策を講じて受け入れを開始する。

部門別目標

機能訓練

<目標> 生活リハビリの充実

<実施計画>

- 1 個別に状態の把握に日々努め可能な限り自立支援を行う (1) 自立支援を職員が理解し実践する。(2) ケアプランに位置づける。
- 2 余暇活動を充実させ日常生活に機能訓練を取り入れる (1) 午前・午後の活動を日課に位置づける。(2) 機能訓練加算の体制を整える。
- 3 日常生活に即した訓練（起立、歩行等）を行い、残存機能を維持する。(1) 生活リハビリ、自主訓練プログラムをケアプランに位置づける。

<年度目標期達成状況>

生活リハビリを個別にケアプランに位置づけ実施することになっているが実施にあたっては徹底されていない現状がある。毎日の余暇活動も、ユニット毎に歌や塗り絵、ゲーム等を予定しているが実施できないことが多い。コロナ禍で慰問、ボランティアの受け入れができない中、デザートビュッフェ、おやつ作りなどの行事を実施。

<次年度への課題>

生活リハビリをケアプランに位置づけ実施を徹底する。日課にレクや作業療法などの活動を取り入れるための業務体制を再検証する。

栄養課

<目標> 食べる楽しさへの工夫と経口摂取の維持

<実施計画>

- 1 摂食意欲が維持できる食事を提供し、経口摂取の維持に努める (1) 医務、ユニット等チームケアの実施
- 2 誤嚥や誤飲等の事故の予防 (1) ソフト食等嚥下食の提供 (2) 状態変化による食事形態の変更にユニット、医務と連携し、迅速に対応 (3) 食事変更に伴うカンファレンスへの参加
- 3 入居者とのふれあい (1) 食事状況の立ち会い評価 (2) 定期的な嗜好調査の実施
- 4 適切な食事提供への研究 (1) 嚥下食の研究 (2) 栄養価主体メニュー (3) 地域食材提供
(4) 季節感や生活感のある食事の研究

<年度目標期達成状況>

入居者の状態変化に伴う食事形態の対応は、医務、ユニットとの連携により迅速に実施できている。
また、形態変更の場合は、管理栄養士が朝昼夕食事時間に状況把握をしている。

<次年度への課題>

嚥下食の研究を継続する。

医 務

<目標> 健康維持と感染症予防

<実施計画>

- 1 入居者の健康管理及び自立支援 (1) 健康管理 (2) 自立支援
- 2 ショートステイ入居者の健康管理 (1) 利用中の健康管理・相談と薬剤管理。
- 3 看護・介護の質の向上 (1) 職員への疾病と服薬についての研修の実施。(2) 看取り・褥瘡予防・感染症予防等、施設内研修会の実施。(3) 事故予防と事故対応の研修の実施。
- 4 職員の健康管理 (1) 年2回の健康診断の実施。

<年度目標期達成状況>

概ね計画通りに実施できたが、感染対策や看取りなどの研修会の開催が不十分だった。特に看取りについては、今年度より加算を算定しているため、職員全員が要件等を十分に把握し、医師の指示の基、チーム一丸となり対象利用者を支える体制を強化する必要がある。

<次年度への課題>

感染症対策や看取り、身体拘束廃止、服薬、虐待など看護・介護技術向上のための研修会を定期的、計画的に開催する。

2020 度 利用者状況 (2020 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日)

特養 (2021 年 3 月 31 日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
要介護1(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護2(人)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
要介護3(人)	5	4	4	4	4	4	4	4	5	5	5	5	53
要介護4(人)	21	21	22	22	22	22	21	22	22	23	24	25	267
要介護5(人)	23	22	21	21	21	21	19	18	18	16	15	16	231
総 数	51	49	49	49	49	49	46	46	47	46	46	48	763
月別稼働率(%)	72	70	70	70	70	70	65	65	67	65	65	68	68
月別平均介護度	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1

平均稼働率：68.0% 平均介護度：4.1

併設型短期入所事業 (2021 年 3 月 31 日現在)

実績なし